

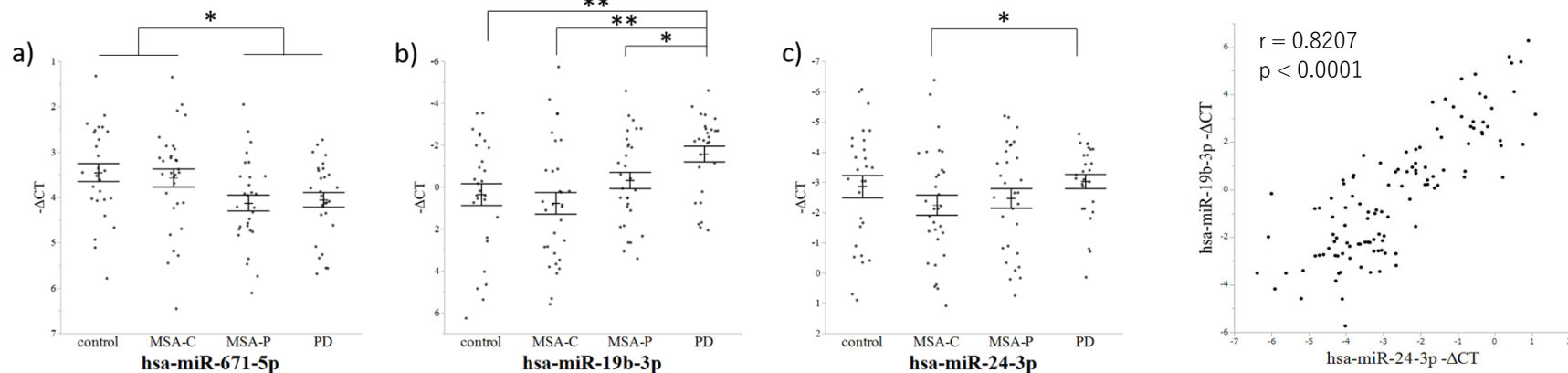
多系統萎縮症・パーキンソン病における 血漿microRNA発現量変化の検討

佐々木秀直, 上床 尚, 浜 結香, 矢部一郎, 高橋育子, 松島理明, 矢部一郎
所 属: 北海道大学大学院医学研究院神経内科学教室

microRNAは様々な疾患で発現が変化することが知られている。
多系統萎縮症(MSA)・パーキンソン病(PD)は早期には類似する症例が多く、
病態評価、鑑別診断に有用なバイオマーカーが望まれる。

MicroarrayおよびqPCR法を用いて、MSA群、PD群の血漿中のmiRNA発現の変化を検索した。

- 1,720種のmiRNAを検出する3D-gene Human miRNA oligo chipsを用いて、MSA群でup-regulate, down-regulateされているmiRNAを同定した。
- qPCRによる解析ではhsa-miR-671-5p, hsa-miR-19b-3p, hsa-miR-24-3pで群間差が認められた。
- hsa-miR-19b-3p, hsa-miR-24-3pの発現量には強い相関が認められた。



- hsa-miR-19b-3p, hsa-miR-24-3pはPD, MSAにおいて、血清・髄液でも変化することが報告されており、病態機序を反映している可能性が考慮された。
- hsa-miR-671-5pの変化はこれまで報告されていないが、MSA-CとMSA-Pで発現が異なり、これらの病態の違いを反映している可能性がある。